

わが校の紹介

私は、私を創っていく責任者を育てる「いのち」輝かす学校を

養父市立伊佐小学校

校長 宇和野修介

校門を入ると校訓（私は私を創っていく責任者）の石碑が目に入ります。この校訓には、子どもたちが学校生活を送る中で、自らを律しながら、さらに自分を励まし、夢や希望を実現してほしいという願いが込められています。

「おはようございます」と元気

まちの文化財 ⑮ 中瀬金山の山臼

中瀬金山は、天正元年（1573年）に、八木川の大日淵で砂金が発見されたことを機に鉱脈が発見されました。天正13年、天下を統一した秀吉は、中瀬金山を直轄地である蔵入地としました。そして八木城主の別所重宗を代官に任命して治めさせました。

中瀬金山四百年フェスタが9月23日から25日まで3日間、関宮地

で気持ちの良いあいさつの声で学校の1日が始まります。6年生と児童会役員が全校生を迎えます。そして、朝の読書で本に親しみ、先生とともに読む時間を楽しみ、静寂の時間を経て学習が始まります。

6年生や児童会役員は、学校を創っていく責任者として、あいさつ運動に取り組んでいます。また、朝の読書は、先生とともに本を読む時間を共有することで心を通わせ、自らを磨いていく責任者としての自覚が育っていきます。

これは、学校生活のひとつですが、学校生活全てで「植打ち」ある生き方を感得させる教

域の中瀬区体育館で開催されます。中瀬金山は日本精鉱株式会社所有する鉱山です。金は、1トあたり5%の含有量があれば採算がとれましたが、含有量が減少した結果、昭和44年に閉山

しました。昭和10年から同44年までに生産された金は、7・2トにも及びます。

中瀬の金光寺付近の畑では、今も江戸時代に金鉱石を砕くときに使った



火で焼いてもろくします。そして、山臼の中心の穴に水といっしょに鉱石の粒を入れて石臼をひきます。細かくなつた泥水を比重選鉱して金を取り出します」と解説しました（写

育を行い、子どもたちが本源的に持っている成長のエネルギーに点火し、内面から燃え輝かせることよって、「いのち」輝かす教育を開花させたいと取り組んでいるものです。そのために、子どもたちを「させられる立場」でなく「する立場」に立たせ「自分は、自分を創っていく責任者」であることの自覚を育む教育実践を推進しています。

この度、この教育実践を支援していただく伊佐小学校同窓会が再発足いたしました。伊佐小学校同窓会は、平成12年度の新校舎竣工を機に、親睦と母校の発展に寄与したいとの機運が盛り上がり設立されました。



臼の破片を見ることができません。これは、金山で特有にみられる金山臼で、山臼と呼ばれます。鉱石研究者の工藤知巳さん（朝来市在住）は「鉱石を300度の火で焼いてもろくします。そして、山臼の中心の穴に水といっしょに鉱石の粒を入れて石臼をひきます。細かくなつた泥水を比重選鉱して金を取り出します」と解説しました（写

教育委員会からのお知らせ

「就学援助制度とは？」

市内の小中学校に通学する児童・生徒が経済的理由により就学困難な場合、就学に必要な経費の一部を市が援助する制度です。

この援助費は、保護者に支給されるものです。この補助金は他の目的に使用することはできません。

●支給される援助の項目・内容

- ①学用品費 ②通学用品費
 - ③校外活動費
 - ④修学旅行費（旅行実費）
 - ⑤新入学児童生徒学用品費
 - ⑥学校給食費（実額）
 - ⑦医療費（学校保健法による疾病に係る保護者負担分）
 - ⑧日本スポーツ振興センター掛け金（保護者負担免除）
- （注）①②③⑤は国が定めた額
- 申請の手続き
- 新たにこの制度の適用を受けようとする方は、随時受けをいたします。現在、就学援助を受けている方で、平成18年度もこの認定を希望される場合は、11月より受け付けます。
- お問い合わせ／養父市教育委員会 学校教育課 ☎664・1627・N.T.T